

南紀高等学校看護科移設の再考を求める意見書

南紀高校看護科は昭和42年昼間定時制課程衛生看護科として出発し、その後専攻科課程の開設や全日制への移行などを経て、平成14年には5年間の一貫看護教育を行う看護教育機関として三十数年の歴史を刻んで来ました。この間、卒業生の多くは看護師として地元医療機関に就職し、地域医療を支える大きな役割を果たして、片や地方の高等学校の多くの卒業生が大都会に就職し、大都会のための人材育成機関となっている感の中で、南紀高校看護科は地元貢献できる数少ない地元密着型の教育機関となっています。

高齢化社会を迎え、充実した医療と福祉を目指す田辺市の未来にとって南紀高校看護科は欠かせない存在となっています。また、南紀高校看護科にとっても地元田辺市は格好の教育環境を提供してくれており、学校と地域は固く結びついております。現在、看護科生徒は高い看護師国家試験合格率を誇っていますが、これも地域の人々の理解や協力、支援によるところが大きく、特に看護科教育は多くの医療講師先生方によって支えられており、地元医療関係者の理解と支援がなければ南紀高校看護科の今日の発展はなかったといえます。

また、紀南の中核都市として医療保健機関や教育文化施設が集中する田辺市に学校が存在することは、校外での実習が多い生徒にとりましてもすばらしい教育環境となっています。加えて発達した交通網は、通学や実習で病院に通う看護科生徒をしっかりと支えてくれています。今や田辺市あつての南紀高校看護科となっています。

ところが、和歌山県教育委員会は、昨年8月の『県立高等学校再編整備計画』(案)に続き、今年5月には『同第1期プログラム』を発表し、平成20年から南紀高校看護科の熊野高校への移設案を示されました。しかし、移設による通学や病院実習上交通事情の悪化を心配する声も多く、多くの生徒や保護者、学校関係者からはこれまでのような質の高い看護教育が保てるかどうか、不安と動揺が広がっています。移設案発表後、これまで募集定員を超過していた看護科応募生徒数が、初めて定員を割る事態が生まれ、新しく看護師を目指す中学生の間にも動揺が広がっています。

すでに、南紀高校育友会、同窓会は、3万人の署名を集め、現在地での看護科存続要望を県教育委員会に提出いたしましたが、看護科存続要望は南紀高校のみならず地域の要望でもあります。

ここに、生徒が安心して看護教育に取り組めるためにも、また、伝統の中で培った質の高い看護教育や地域の協力体制を維持するためにも、南紀高校看護科の現在地での存続を強く要望いたします。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成17年7月19日

田 辺 市 議 会

(提 出 先)

和 歌 山 県 知 事

和歌山県教育委員会